

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80-24		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>原則や決まりごとをみだりに作るのではなく、一人ひとりが自由で ありのままに過ごせることを心がけています。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800358&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>栗山町内にある「グループホーム ほのかの里」は近くにホームセンターやスーパーなどもある便利な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。前庭には東屋が設置され、利用者同士で外気浴やお茶会などを楽しむことができる。居間の天井にはトップライトがあり、共用空間は明るく清潔、開放的で、食堂と居間を中心に各居室が配置されている。トイレや風呂も広めて使いやすく作られている。職員や管理者は利用者一人ひとりを尊重し、楽しみごとや手伝いをしてもらいながら個々のペースに合わせて優しく丁寧に接している。職員同士のコミュニケーションも良く、協力体制が整っており、利用者や家族の安心に繋がっている。医療面でも希望に沿ったかかりつけ医への通院支援が行われている。夏場は毎日のように散歩や買い物に出かけ、外出行事も豊富である。食事の面ではバランスの取れたメニューで彩り豊富な食事が提供され、近所の方からの野菜などの差し入れもあり、季節感が楽しめるようになっている。介護計画の作成や排泄の支援などの面でも個々の利用者の状況に合わせたきめ細かな配慮が行われている。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践しております	理念の4項目を「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「いつも笑顔で」と定めている。一方、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容という面では十分とはいえない。	運営理念の中や介護目標などで地域との交流や協力に関する項目も加え、地域密着型サービスとしての意義を明確化されるよう期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の人達との交流が折にふれてあり、地域とつながれているのではないかと思います。	町内会に加入し、事業所の夏祭りには近所の住民にも参加してもらっている。利用者が散歩する際には近隣の方と会話したり野菜をもらうこともある。事業所の避難訓練にも地域の方数名の参加を得ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば、地域の人たちに必要な情報を伝えていけたらと思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は防災に関する議題で、運営推進会議を行い、災害時には地域と助け合う体制を意識することが出来た。	運営推進会議は、町の職員、町内会役員、利用者家族、法人代表、管理者などが参加して、災害対策や夏祭りなどについて話し合っているが、開催は年に3回程度にとどまり、テーマも限定されサービス評価に関する話し合いも十分とはいえない。	2ヶ月に1回を目標に会議の開催回数の増加を図るとともに、テーマに地域交流やサービス評価なども加えたり、議事録を家族に送付して意見を収集するなどの取り組みも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	折に触れて役場に行く機会があり、認定調査などの際に役場の方がこられるので、その都度協力を仰ぐことが出来る。	町の職員が運営推進会議や夏祭り、避難訓練などに参加しており、いつでも相談できる関係にある。介護認定の更新時にも町職員の来訪を受けている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわれておらず、日中は玄関の施錠をせずに過ごすことが出来ている。	身体拘束は行われておらず、身体拘束についてのマニュアルを整備しているが、禁止の対象となる具体的な行為を示した書類の整備は十分とはいえない。玄関は夜間のみ施錠しており、外出があればセンサーで分かるようにしている。	身体拘束のマニュアルなどの中で禁止の対象となる具体的な行為を示し、職員間で共有されるよう期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで虐待防止について学ぶ機会はなかったが、利用者の自宅や事業所内で虐待があるという話は聞かれていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関して学ぶ機会はなかったが、昨年まで後見制度を利用して入所されている方がいた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族の疑問を聞き、十分な説明を行なう準備はできている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪された際などに、意見要望を常に聞く姿勢を作っている。</p>	<p>家族の来訪は多く、その際に直接意見を聞いている。個々の利用者の様子をお便りにして家族に送付している。また、玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に事業所と外部の苦情窓口を明記している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員一人一人の提案を反映できる職場づくりを目指している。</p>	<p>2ヶ月に1回程度ユニットごとのミーティングを行っている。職員は意見が言いやすい環境にあり、活発に意見交換して運営に反映させている。欠席した職員には連絡ノートで内容を伝えている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>十分に整備されていると思う。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会がその都度与えられ、職場に生かすことが出来ている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修の際などに交流する機会はあった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や困っていることに耳を傾ける姿勢は常に持っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪の際や電話などで、困っていることに耳を傾ける機会をつくっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行なっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食器の片付け、掃除などをそれぞれの能力に応じて手伝って頂き、共に生活している感覚を持っていただけているかと思う。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族と連絡を取っているが、もっと積極的な関係作りが必要なのかと思う。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪などによって、馴染みの人との関係は続けていけていると思う。	古くからの友人が事業所を訪ねてくれる利用者も多く、来訪を歓迎している。また、友人との電話のやり取りも支援している。ドライブの際に利用者の住んでいた場所に連れて行くこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人の輪の中に入っている感覚をレクなどを通じて持つことが出来るていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行なったことはないが、全くと心に留めていないわけではない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて、意向を把握できていると思う。	思いや意向を表現できる利用者が多いが、困難な利用者も表情やしぐさから希望を把握している。利用者の情報は「基本情報」や「連絡ノート」で共有しているが、新たに得られた情報の蓄積は十分とはいえない。	利用者の情報を蓄積できるようなフェイスシートやアセスメントシートなどの充実を期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、本人の背景を尊重した支援を心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理をしないほうが良い方には無理をさせず、できることは極力自分でやって頂いている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の会話から得た情報を基に介護計画を作成している。	3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、介護計画を見直し作成している。討議内容はサービス担当者会議の要点としてまとめ、欠席した職員も情報を共有している。家族に計画を説明し同意をもらっており、介護記録も計画を見ながら記録するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズを察知し、柔軟な支援が出来ていると思う。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や季節を感じられる場所などへ行く機会をつくり、暮らしを楽しむ支援を行なっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療を受ける機会をその都度つくっている。	提携医以外でも利用者の希望や家族の意向に沿ったかかりつけ医への通院支援を行っている。受診内容や薬の変更などを連絡ノートに記録し職員に周知するとともに、必要に応じて家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は現在いないが、地域の病院との連携で看護師の指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はこまめに様子を見に行き、病院との関係づくりを行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の「看取り」のあり方についてなど事業所としての方針を明確にしておく必要があるかと思う。	重度化した場合の対応について、現状は事業所での看取りまでは難しく、利用開始時に事業所での対応可能な範囲を説明して家族の納得を得ているが、説明書類や指針などは作成していない。	重度化した場合や終末期の事業所の対応方針について口頭で説明するだけでなく、事業所の方針を示した文書を作成して説明し、同意の署名捺印を受けることが望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて、救急時の対応について学ぶ機会があり、普段から急変時のことを話し合う機会を持っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行なっている。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域の協力のもと実施している。職員の定期的な救急救命訓練も順次実施しており、受講した職員による伝達講習も行っている。災害時の備品は本部で用意している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉に配慮しつつ接している。	職員は「マナー・言葉遣いの接遇研修」を受講し、内容を会議で報告している。利用者の呼び方は名前に「さん」付けを基本としている。声の大きさにも配慮し、気になる言葉かけがある時は管理者がその都度注意している。個人記録は事務所で保管し、記録時に席を離れる時は書類を閉じるように配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表す機会を極力つくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその人らしい過ごし方を尊重しつつ、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	充分かと思うが、もっとそれぞれの思いを受け入れたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	折に触れて調理など手伝って頂き嗜好に合わせて食事を用意している。	献立は総合施設長が作成し、職員は利用者と一緒に食材の買い物や準備、後片付けなどを行い、食事を共にしている。利用者の好みに応じて献立を変更したり、おやつ作り、お弁当を持って公園に出かけるなど食事が楽しめるように工夫している。回転寿司などの外食にも出かけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を把握し、必要があればチェックシートに書き込んで毎日管理している			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行なっている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な人にはトイレの定時誘導を行うが、極力自立を促している。	各利用者の排泄パターンを把握してトイレに誘導することで、オムツの使用を控えて失禁パンツに移行できるように取り組んでいる。トイレ誘導時も「手を洗いにいきましょう」などと他者に気付かれないような声かけを工夫している。排便は記録して間隔を把握している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力食べ物の工夫で便秘を予防するが、病院で下剤を処方してもらう事もあった。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴を行なっている。	日曜日以外の午後を入浴時間として、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。入浴を拒否する時は時間を変えたり職員を交代して声かけを行っている。入浴剤を使用したり、利用者に合わせて温度に配慮して入浴を楽しめるように工夫している。仲の良い利用者同士で入浴を楽しむこともある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を伺い、休みたい方には休んで頂けるよう促している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による症状の変化について、全員で気に留めることにしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好を大切にしつつ、楽しみを作れる支援を行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて散歩の機会をつくっており、行きたいところがあれば、行ける用意はしている。	夏季の天気の良い日は毎日のように、利用者の能力に応じて、公園に出かけたり、事業所の周りを散歩している。車椅子の利用者も一緒に散歩を楽しんでいる。町内のドライブや、以前住んでいた地域などの見学に出かけることもある。年間行事で夕張方面へのドライブやお花見、紅葉狩りなどに全員で出かけて外出を楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金のある人もいるが、お金を使う機会がなく、買物などを行なう機会を作っても良いのではないかと思う。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのような事を行なう体制は作れている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい居住空間だと思う。	トップライトがあり、明るく広々とした居間は掃除も行き届いている。観葉植物やお花、季節の壁飾り、ゆったりとしたソファやテーブルも置かれており、家庭的な温かさを感じられる。ブラインドで光を調節し、加湿器で湿度管理も適切に行っている。台所は対面式になっており、職員と利用者は会話を楽しみながら食事の支度ができるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの自由が許される雰囲気があると思う。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器・衣服など、極力本人の馴染みのものを使用できる工夫をしている。	各居室にはロッカーと暖房器具が備え付けられており、夜間は濡れたバスタオルで湿度調整を行うなど、環境整備にも配慮されている。入口のドアは開閉時に床に響かないように配慮して少し浮かした造りになっている。各利用者は使い慣れたタンスや衣装ケースを持ち込んだり、家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせる建物だと思う。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80-24		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>約束事や決まりごとをみだりに作るのではなく、一人ひとりが自由でありのままに過ごせることを心がけております。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800358&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間に理念を掲示している。職員一人一人が理念を理解し、日々のケアで実践しています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の夏祭りやクリスマス会などの行事に地域の人々が手伝いに来られる。また昨年より地域の人々を交え避難訓練を実施したりと深い関わり合いができています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状はホームとして地域貢献にまで取り組む余裕が無く、今後の検討課題です。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、地域代表、役場福祉課長、本社役員、管理者が参加し年2回開催している。事業所の状況報告や行事について話し合いが行なわれています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の職員が運営推進会議や夏祭りに参加するなど、役場の方から事務所に訪問する機会を多く持たれています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を目指し、事業所でマニュアルを作成し、ホームで勉強会を実施しています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年より複数事業所連携事業(合同職員研修)に参加し、虐待の防止についての研修をし、職員一人一人の虐待防止への意識も高まっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用された御入居者様がおられ、スタッフの意識が少しずつ高まってきています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、御利用者様、御家族様に御理解、納得をして頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等について、ホーム管理者、総合施設長といつでも対応しています。またアンケートボックスを設置し、御家族様が気を使われることのないよう工夫しています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案については、本社がいつでも対応しており、それらを運営に反映させています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度代表者、管理者によるカンファレンスを開催し、管理者より職員個々の努力や実績等報告しています。また、代表者は積極的に職員個々と話す機会を設け、各職員が向上心をもって働けるよう配慮しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各部の研修に業務の遂行に無理のかからない範囲で職員に参加を勧めている。また昨年より複数事業所連携事業(合同職員研修)で他事業所との合同の勉強会にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より複数事業所連携事業(合同職員研修)に参加し、他事業所との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、御本人や御家族様に困っていることや不安なこと、要望などを聞き、サービスに組み込むよう対応している。また入居後もご本人や御家族様が要望を話しやすいよう、信頼関係が築けるよう配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、御家族様が困っていること、不安なこと、要望などを聞き、サービスに組み込むよう対応している。また入居後も御家族様が要望を話しやすいよう、御家族様と信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、御家族様や御本人様が最も求めていることを聞き、サービスに組み込むよう対応しています。また、入居後もいつでも御家族様や御本人様が気遣われること無く話ができるような環境を整えています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩をお世話させて頂いているということを念頭においてご入居者様との関係を築かせて頂いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の協力を得て共に御入居者様がゆったりと楽しく自由にありのまま生活できるよう対応させて頂いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や親類の方以外にもご友人、知人もよくホームを訪れてこられ、御入居者様も喜ばれております。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様が楽しく安心して生活して頂けるよう、また御入居者様が孤立せず、淋しく辛い思いをしないよう、職員が間に入り対応させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入居様が退所され、入院した後、代表者、管理者、職員が御見舞いに行っています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御入居様が自分らしくありのままホームで生活できるよう対応させて頂いています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時または入居後に御本人や、御家族から情報を得ていくよう対応させて頂いています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御入居様様の一日の過ごし方、心身状態、有する力等を把握し、サービスに組み込むよう対応させて頂いています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御入居様様がホームでより良く生活して頂けるよう、御家族様、御本人様と話し合い、プランの作成をさせて頂いています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御入居様様の日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、介護計画の見直しをさせて頂いています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応をし、御支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度は2度、南空知消防組合の方と御入居様、地域住民の方、職員を交え、行なっています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様や御入居様様の希望に沿って出来る限り対応させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	栗山赤十字病院などの地域かかりつけ医療機関の看護職員と関係を築き、御入居者様が適切な受診を受けられるよう、御支援させて頂いています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御入居者様が安心して治療し、またはできるだけ早期に退院できるよう病院関係者との情報交換や相談に努めています。病院関係者との連携もとれています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は御家族様に入居時に説明を行っており、御本人様や御家族様には納得して頂いています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に積極的に参加し、応急手当や初期対応の訓練を行っておりますが全ての職員が参加しているのではないのでできるだけ参加できるように対応していきたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っております。昨年は夜間の火災を想定した訓練や地域住民の皆様と合同で避難訓練を行い、地域との協力体制は整っています。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御入居者様は人生の大先輩ということを職員一人一人が念頭において対応させて頂いています。誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを心がけています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者様のご希望にそえるよう対応させて頂いています。また自己決定できるよう配慮しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御入居者様の希望にそって御支援させて頂いています。御入居者様が自由にありのまま生活できるよう対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御入居者様一人一人が個性を尊重できるよう御支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者様が負担にならない程度に職員と一緒に準備や食事、片付けを行なっています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御入居者様一人一人の状態に応じた御支援をさせて頂いています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、また御本人様が不快にならないよう対応させて頂いています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御入居者様の排泄の失敗やおむつの使用を少しでも減らせるよう排泄のパターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けて御支援させて頂いています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御入居者様の状況に応じた対応をさせて頂いています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日を除き、午後2時～4時頃までに入浴できる態勢になっています。御入居者様の希望に応じて週2回実施しています。また異性介助に抵抗がある御入居者様には職員を代えつつ対応させて頂いています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御入居者様一人一人の生活習慣を把握して御入居者様が安心して気持ちよく眠られるよう御支援させて頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御入居者様一人一人が使用している薬の目的や副作用を職員全員が把握して服薬の支援をさせて頂いています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者様一人一人の好きなことや嫌いなこと、得意なことや不得意なことを職員が把握し、御入居者様が楽しくかつ力を活かせるよう御支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>御入居者様の希望があれば出来る限り御支援させて頂いています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご入居者様でお金を所持したいとの希望があれば能力に応じて御支援させて頂いています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御入居者様の希望があれば御支援させて頂いています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>桜の花や紅葉など季節感が感じられるものを飾り付けるよう心がけています。また、貼り絵やちぎり絵をその季節や行事にあわせ居間や廊下などに貼るように対応させて頂いています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>御入居者様が共用空間の中で独りになれたり、気のあった他の御入居者様と思い思いに過ごせるような居場所の工夫をさせて頂いています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御入居者様が使い慣れた物や馴染みのものを居室に置くことにより御入居者様が安心して心地よく過ごされるよう配慮しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>御入居者様が安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるよう配慮しています。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのかの里

作成日：平成 23年 3月 29日

市町村受理日：平成 23年 4月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「地域」という言葉を理念に含めることが望ましいが、現状では含まれていない。	理念の中に「地域」という文言を含める。	理念の「いつも笑顔で」を、「いつも笑顔で、地域と共に」に変更する。	即日
2	4	年6回の運営推進委員会の開催を目標としているが、現状では難しい。	年6回の開催に近づける取り組みを行う。	従来の運営推進委員会に加え、外部評価や実地指導などで指摘されたことなどを地域の人たちに報告する機会を作り、地域の人たちとのコミュニケーションを深める。	1年
3	33	重度化したご利用者様への対応を明確にする必要がある。	重度化した場合のケアについて、本人やご家族に説明できるようになる。	ご利用者様が重度化した場合の対応について、事業所全体で協議する。また、将来は訪問診療や訪問看護を取り入れ、重度化してもホームで「看取り」のできる整備をする。	1年
4	6	身体拘束について職員全体がより詳しく把握する必要がある。	「身体拘束の禁止となる具体的な行為（11項目）」を職員全員が周知する。	「身体拘束の禁止となる具体的な行為（11項目）」を、「身体拘束禁止マニュアル」に含め、それを基に勉強会やカンファレンスを行う。	1ヶ月
5	23	ご利用者様に関する基本情報の聴取が不十分で、生い立ちや趣味など把握できていない所がある。	ご利用者様に関するアセスメントをより詳しく行う。	入居した当初のアセスメントに加え、入居後の経過を追って定期的のアセスメントを行い、基本情報を新しくしていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。